



太田 麻美さん(左)
経済学部会計ファイナンス学科2年生
この講義は週週の講義までの1週間で課題について調べて、自分の考えをまとめるまででやらずにはいけないのがすごく大変です。でも逆にそこがこの講義のおもしろいところでもあるので、最後までやりとげたいと思います。

石郷岡 祐奈さん(中央)
経済学部会計ファイナンス学科3年生
ゼミに入って自分の意見を発言する機会がたくさんあり、自分なりの考え方や意見が持てるようになったと感じています。大学の勉強の他にもアルバイトなどで毎日忙しいですが、充実した大学生活を送っています。

平松 里梨さん(右)
経済学部会計ファイナンス学科2年生
将来はメーカーで企画やマーケティングの仕事をしたい、と思っています。私は将来に向けて取り組んでいることがたくさんありますが、立教はいるんなことにチャレンジできる環境が整っているのので、毎日が充実しています。

学生に聞きました！
講義・大学・将来の夢



立教大学

URL <http://www.rikkyo.ac.jp>
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
立教大学入学センター
TEL 03-3985-2660

学部	沿革・歴史
文学部	1874 (明治7年) 米国聖公会の宣教師であったチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教により、東京・築地に私塾「立教学校」設立
異文化コミュニケーション学部	1883 (明治16年) 外国人居留地37番のレンガ校舎に移転し「立教大学校」と改称
経済学部	1907 (明治40年) 専門学校令により、「立教大学」と称する
経営学部	1918 (大正7年) 校舎を池袋に移し、現在に至る。築地校舎は1923年(大正12年)の関東大震災によって焼失
社会学部	1949 (昭和24年) 新制大学として認可され、文学部、経済学部、理学部を設置
法学部	2006 (平成18年) 池袋キャンパスに経営学部、新座キャンパスに現代心理学部を設置するなど、学部・学科を大幅に改組
観光学部	2010 (平成22年) 全学共通カリキュラム言語教育科目において、新カリキュラムを開始
コミュニティ福祉学部	2012 (平成24年) 池袋キャンパスに池袋図書館完成。
現代心理学部	2013 (平成25年) 池袋キャンパスにポール・ラッシュ・アスレティックセンター完成。
	2014 (平成26年) 創立140周年。学院展示館、メーザー・ラーニング・commonsを開設。

イベント情報

- オープンキャンパス
- 池袋キャンパス 8月4日(木)、5日(金) 10:00~16:00 全学部
- 新座キャンパス 8月23日(火)、24日(水) 10:00~16:00
- 観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部

プログラムの内容、申込方法などの詳細は大学ホームページでご確認ください。
http://www.rikkyo.ac.jp/invitation/admissions/open_campus/

取材担当者より
立教大学、
こんな大学でした！

大学のシンボルである黒がからまるチャペルから感じられる歴史と、最新の設備の両方を兼ね備えた素晴らしいキャンパスでした。立教大学では各学部の特性に応じたキャリア教育に力を入れており、経済学部では卒業生との交流や企業での研修など様々な機会が用意され、目標に向けて成長できる環境だと感じました。



先生のご紹介

いいじま ひろゆき
飯島 寛之先生

1976年生まれ。立教大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。立教大学経済学部助教を経て2008年高千穂大学准教授。2011年東京富士大学准教授、2013年より立教大学経済学部会計ファイナンス学科准教授および立教大学経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程准教授。

を、実際に企業の方から話を聞くことで、学生たちが実社会と経済学を結びつけて考えられるようになることを目指している。また社会人になれば自分の考えを正確に伝える力が求められるが、そのためには論理的に考える力、そして自分の考えに興味を持つことも重要な伝え方が大切になる。その方法を学び、チームで課題を解決する力をつけることもこの講義の目的だ。この日のディベートはまさにそれ

前半25分のディベートが終了した後、5分の

「世界は動いている！社会人としての10万時間の過ごし方を考える」

グループごとの作戦会議を挟んでさらに25分のディベートが行われた。白熱した議論が繰り広げられたが、最後に佐藤先生がこうまとめた。「すでに自動車業界は製造業とITが融合した業界となっています。遠くない未来に、どのような自動車が登場して、その結果、世界のあり方はどう変わるのか、そういうところまで踏み込んで考える必要がある

「企業はどのような課題を抱えている、それをどう解決しているのか」

時間10万時間。その長い時間をどのように使うのかをきちんと考えて、自分のキャリアを考えよう、と企業の第一線で活躍する佐藤先生ならではの言葉で90分の講義は終了した。



立教大学

経済学部 会計ファイナンス学科

5.12.Thu. at Tama
10:45~12:15

本日の講義 課題解決演習C

講義の流れ 経済学の理論が実際の生活や企業行動とどのように結びついているのか、それを企業の第一線で働いている方を講師に招き、講師から出された課題についてのディベートや、グループワークを行う

醍醐味 実際に企業が抱えている課題や、将来的な問題への対応策について、自分自身で考えること、そしてそのアイデアを他者に共感理解してもらうためのスキルが身につく。



「さつそく始めます。この講義を担当するのは立教大学の飯島先生。企業の第一線で活躍している社会人講師の佐藤先生が加わり、講義を開始したスライドには事前に出されていたテーマが表示されている。「自動車を通じて2020、2050年の世界をよりよくしていくためにはどの企業が最も発展すべきだろうか」というテーマで、グループごとに一社を担当し、その企業

「経済学を学び始めた学生はよく『経済学は抽象的でわかりにくい』と言います」と飯島先生は話す。そもそも学問とは経済学に限らず抽象的なもの。しかし、

学問と実社会を結びつける 経済学を身近に感じるのは

学生が経済学に興味を持って積極的に学び始めるきっかけになるように、この講義を行っている。本来、企業経営や家計について起きる問題は経済学とは切っても切り離

せない。その理由を学んでほしいというのが、飯島先生からのメッセージだ。

「企業はどのような課題を抱えている、それをどう解決しているのか」

2050年とはどんな世界になっている？

ディベートで真剣勝負

講義開始5分前。教室はとて賑やかだ。学生たちが机と椅子を移動させ円形に並べ替え

「さつそく始めます。この講義を担当するのは立教大学の飯島先生。企業の第一線で活躍している社会人講師の佐藤先生が加わり、講義を開始したスライドには事前に出されていたテーマが表示されている。「自動車を通じて2020、2050年の世界をよりよくしていくためにはどの企業が最も発展すべきだろうか」というテーマで、グループごとに一社を担当し、その企業

の立場に立つて25分間のディベートを行う。登場する企業は、トヨタ、マツダ、タタ、グループエアロモービルの5社。各チームはそれぞれが調べてきた内容をもとに、自分たちが考える未来の車のあり方について、そしてそもそも「よりよい社会とはどのようなものか」について発表していく。

その間、佐藤先生はディベートそのものには全く口を挟まず、議論

の行方を見守っている。しかし、3グループの意見が出た時点で、ストップをかける佐藤先生。「今までのグループの発表はすべて単なる説明ですね」と厳しいコメントを投げかけた。相手に興味を持ってもらうには、「相手がどんな人でどんな風に議論を組み立てていけば効果的なのかを考えるべき」という言葉にハッとする学生たち。それ以降、教室の空気がピリッと変化した。

経済学は抽象的？

ディベートを通じて学ぶ生きた経済学